

山村ぐらし支援協議会総会

平成26年4月30日(水)に南牧村役場2階多目的ホールにおいて平成26年度総会が行われ、25年度の事業報告・決算報告、26年度の事業計画と予算の説明が行われました。

25年度活動内容としては、所有者より承諾の得られた空き家物件内部及び設備等確認の継続調査。

群馬県主催・移住相談会(東京・ぐんまちゃん家、有楽町交通会館他)への参加でなんもく村への移住相談サポート。

なんもく女性懇話会主催「地域について考える座談会」への参加協力。

また「山村ぐらし支援協議会」発足

後初の試みとして、今年1月に「移住者との懇親会」を実施。(協議会活動開始以降移住。もしくは二地域居住者を対象)

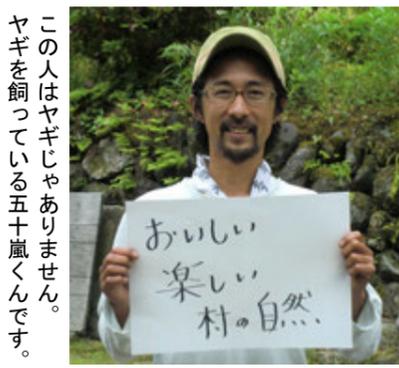
継続活動として、協議会ホームページによる広報・「山村ぐらし通信」の四季発刊など地道な活動を行ってまいりました。

26年度の事業内容は大きな柱として次の4点が挙げられました。

- ①空き家調査及び空き家情報の整備。情報整備では南牧村公式ホームページ掲載「空き家バンク(古民家バンク)」内、物件情報の拡充を見据えた詳細情報の整備を進める。また村内空き家の所在状況を視覚的に分かりやすく表示できるように掲示物を作成する。
- ②南牧村内外への情報発信の継続活動。協議会HPの維持管理と内容の更新、積極的な活用を進める。ブログ等を利用し協議会活動の状況を村内・外に広く伝えていく工夫を目指していく。主に村内住民に向けての広報活動として、引き続き「山村ぐらし通信」の定期発行と紙面充実を検討する。その他、様々な可能性を排除せず検討していく。
- ③空き家(古民家)利活用の方向性に実現性を含めた多方向での検討を行う。(住民票を伴った移住が理想ですが、二地域居住や企業の福利厚生等利用、あるいは近隣企業の社宅としての利用の可能性、インターネットの普及による社外勤務制度受け入れ地としての可能性、農地を付加された農地付古民家構想など)
- ④その他「なんもく村の活性化」の一助になり得る活動(移住相談会等、人との繋がりが重要)を目指し村民、村外協力者など多くの繋がりを得ながら活動を進めて行く等々。



熱き血潮みなぎる県庁帰りの熱血漢「石井たかひこ」た俺のこったあ!



この人はヤギじゃありません。ヤギを飼っている五十嵐くんです。

新メンバー紹介

山村ぐらし支援協議会も、新メンバーの加入や群馬県庁・南牧村役場企画情報課の担当職員の変更があり新しい体制となりました。これからは「南牧村の活性化」に向け、会員一同頑張っていきたいと思っておりますので、住民の皆様、村外にてご協力いただいております。また各位には今後ともご協力をお願いいたします。

平成25年度空き家問合せ状況

月	電話	来庁	メール	見学	計
4月	6	1	0	5	12
5月	8	3	0	3	14
6月	8	0	1	4	13
7月	14	1	1	4	20
8月	3	0	2	4	9
9月	1	0	4	1	6
10月	4	0	2	0	6
11月	9	2	0	4	15
12月	6	1	0	1	8
1月	5	3	1	0	9
2月	1	2	0	2	5
3月	2	1	0	0	3
計	67	14	11	28	120

25年度暮らし体験民家利用状況

利用件数	7件
稼働日数	224日間稼働

※詳細につきましては協議会HPもしくはブログサイト内にて公表予定

なんもく
山村ぐらし通信

先月4月30日南牧山村ぐらし支援協議会26年度・総会が開催されました。まだまだ組織と呼ぶには未熟さが先立ち、さまざまな課題をメンバーひとりひとりに投げかけることになりました。さて、今年度はいかに!

2014(平成26)年6月号
通巻第9号版(春季号)

発行責任者: 神戸 広
問合せ: 南牧村役場 企画情報課
電話: 0274-87-2011(代表)

紙面編集: 協議会広報班
発行元: 南牧山村ぐらし支援協議会

山村ぐらし支援協議会
QRコード

http://www.nanmoku.ne.jp/~sanson/

動内容等にいろいろな意見等が出され、26年度の活動方針等が確認されました。

山村ぐらし支援協議会も、新メンバーの加入や群馬県庁・南牧村役場企画情報課の担当職員の変更があり新しい体制となりました。これからは「南牧村の活性化」に向け、会員一同頑張っていきたいと思っておりますので、住民の皆様、村外にてご協力いただいております。また各位には今後ともご協力をお願いいたします。

住民生活課の
ご協力を頂きました!

5月の固定資産税通知送付の際に、住民生活課のご協力を頂き、空き家所有者の皆様宛て、協議会から空き家の有効活用をお願いする書面を同封させて頂きました。書面を読んで頂き一人でも多くの関係者からご理解とご協力を頂ければと考えています。

協議会会長名で同封させて頂いた書面には、現在の活動内容をよく簡単ではありますがご案内させて頂きました。

ご協力頂きました方々にはこの場をお借りして御礼を申し上げます。

～会長・和菓子職人～

農・山村地域への移住・定住を促進するための施策は、東日本だけで五〇〇近い市町村で行われており、全市町村数の四割を超える。ちなみに群馬県内では約三割。

内容はさまざままである。空き家バンク、暮らし体験、地域紹介バスツアー、婚活パーティー、住宅改修補助金、移住者への助言などなど。ざっくり言えば、移住前の宣伝・体験と、移住後のアフターケアとに分けられる。

そして、その目的を人口増だけだと思っただけではない。人が増えれば新しい知識や経験が入ってくる。人と人との輪も広がる。交流が交流を呼ぶ連鎖反応により、長

い目でみれば地域が変わる。良くなるに決まっている。そう、移住・定住の促進は、実は遠大なる「地域元氣化大作戦」に他ならない。

これらを踏まえると、なんもく山村ぐらし支援協議会の今後に向けての課題が見えてくる。

①多くの市町村がライバルである。独自の色を出して、差別化を図りたい。

②移住前の宣伝に、たとえば日帰りや短期滞在型の体験メニューがあってもいい。

③南牧村の将来を左右する巨大プロジェクトである。協議会にすべてをゆだねるのではなく、村びとみんなの理解と協力が不可欠である。

～村外応援隊長を自負する牧山より～

我・想・明・村

茨城大学農学部准教授 中山間地域フォーラム 牧山正男氏寄稿

①多くの市町村がライバルである。独自の色を出して、差別化を図りたい。

②移住前の宣伝に、たとえば日帰りや短期滞在型の体験メニューがあってもいい。

③南牧村の将来を左右する巨大プロジェクトである。協議会にすべてをゆだねるのではなく、村びとみんなの理解と協力が不可欠である。

なんもく・山村ぐらし通信

〜南牧村の今昔 水車編〜



昭和37年頃の大塩沢水車小屋

南牧村民俗資料館に行ったときに一枚の写真が気になった。

建物に丸い物がついている。しかもすぐ側には川がある。おっ、これは水車ではないか。南牧村に水車？水力発電でも行っていたのか？この水車が気になったので、調べてみた。

この水車小屋は、大塩沢地内にあった水車小屋であり、こんにやくの製粉に用いられていたそう。大正5年(1916年)に作られ、昭和37年(1962年)の春まで稼働していたが、工場の移転により動力による製粉を行うようになった。

南牧村のこんにやく産業が全盛期のころには、村内に水車小屋が19箇所もあったようである。いま水車は見られないが、こんにやく工場であった建物をみると建物や石積みなどからは水車がいった形跡が伺える。大塩沢地内にあった水車小屋も水車自体は無くなっていたが、小屋は残っていたそう。

平成19年の台風9号災害により、土砂が建物に入ってしまったため撤去してしまい、いまでは右下側写真のようになっています。

「南牧村民俗資料館」には、村内から集められた生活用具(約4,000点)が展示されています。ひとつの道具や写真などを調べることににより、南牧村の歴史

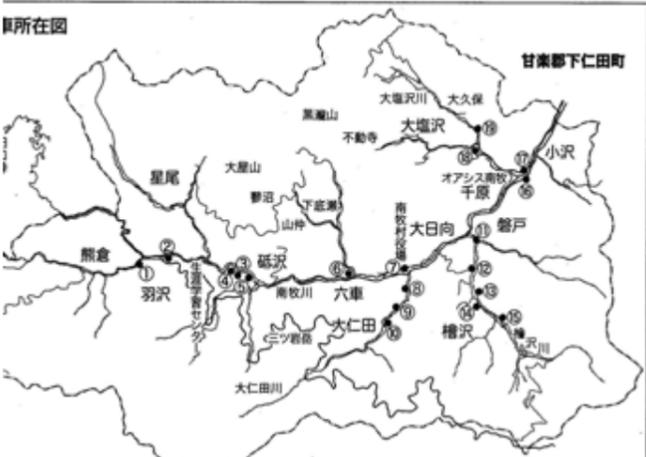


現在の水車小屋付近の様子

や今は途絶えてしまった生活形態などが少しだけ身近な事として捉えることができるようになります。また空き家になっている家屋のつくりなども見えてくるかもしれません。

これからも南牧村の今昔をいろいろな角度から発信していきたいと思えます。次回もお楽しみに！

取材・フットサトル特派員



村内19箇所にあった荒粉製粉水車

〈協議会からお願い〉

現在、村内に移住を検討している来村者の方に紹介できる空家情報が不足しています。空家所有者の方や情報をお持ちの方からのご理解とご協力をお待ちしております。空家の有効利用にご理解とご協力を！

とある公園管理人の見た風景

なんもく村の絶景とその巻

パワースポット？
今回、自分に与えられた「お題」は、南牧のパワースポット！うん…パワースポットかあ。

いろいろな考えてみたものの、みなさんに紹介してパワーがもらえなかったなんて言われるよりは、自分が見てきた中で、これぞ南牧の絶景という場所を教えたかと思えます。本当は内緒にしておきたいところなのですが、今回は南牧村観光大使なんしちゃんの大親戚ということで大盤振舞いです。

高所恐怖症の自分は、断崖絶壁の山のでっぺんから見たものではなく、とある公園から見た南牧全域を見渡せる絶景をご紹介します。

そこでは、春を迎えると下方より花が咲き登って来る様子がわかる絶景！

とある公園のパノラマ写真をドローンとジャイアンを足して2で割ったような管理人の提供



新年(度)を迎えて

この協議会の会長を受けて1年が過ぎました。

就任時、村内の空き家が300戸を超えているという事実にも途方もなく道を感じました。でもそれは自分の思い違いで、立ち止まっていたから「途方も無く」感じたのであって、この1年を振り返ってみると前に進んでこられたと実感します。物件調査に始まり、移住者相談会、山村ぐらし通信の発行、協議会内でのワークショップ、更には移住者との懇親会と、協議会会員の理解と協力があつたからこそ(もちろん村の協力も大)出来た活動です。

全国的に見ても空き家は増加の一途で、08年時で約757万戸あるそうです。県内でも5万9千戸あるとされています。これを受けて自民党が対策法案の提出方針を決めたり、県内でも空き家の活用を促進するために劣化診断調査に乗り出しているようです。もし南牧村に存在する空き家その調査を受けたらどうだろうか？ 程度は様々だけど「古い」とか「壁が落ちて」とかで基準外にはしてほしくないのです。この村には「古民家」と言われる家が多く存在し、梁や柱に目を見張るような価値のある家が残っています。そんな家々にまた灯が灯るような活動を進めてゆきたいものです。

協議会会長 金田鎮之